

# 島根の記憶

②

山陰の風景と風俗を、千五百枚以上の写真に残したドイツ人哲学者フリッツ・カルシュ。島根との縁を、研究者の若松秀俊・東京医科歯科大学院教授(57)に、一回にわたって紹介してもらおう。

まず、カルシュがどんな人官などの要職にあった者で、何をしたかを傍観してみたい。スポーツ界の功労者が挙げられる。

一八九三年、ドイツ東部のブラゼヴィッツで父ヘルマン、母ルイーザの間に生まれる。しかし、これまで全くとラフカディオ・ハーンの影響で、一九二五年(大正十四年)旧制松江高(現、島根大)に赴任。十四年間、島根大に赴任。十四年間、教鞭を執り、多くの人材を育てた優れた教育者であると同時に、日本の哲学や宗教の研究にも力を注ぎ、外交官として終戦まで働いた。

「袖すり合も多生の縁」と言うが、縁もゆかりもなかったカルシュと私を結びつけたのは、全くの偶然だった。そもそも発端は、シュツットガルトのホテルで、カルシュの娘さんに出会ったことだった。しかし、今にして思えば、それに至る経緯は、とても偶然と思

は、「長崎の鐘」で知られる永井隆博士をはじめ、多くの著名人を見いだせる。直接、指導と影響を受けた者には、学界、政界、法曹界の重鎮、さらに実業界や外交

## カルシュ、その人 (1)

1939年ごろのフリッツ・カルシュ(右端)一家。左から妻エンメラ、長女メヒテルト、二女リーデルン(若松教授提供)



えない出来事集積によるものだった。残念ながら、カルシュは日本では戦中戦後の渦中に紛れた、人に知られぬ哲学者である。わずかな手がかりから彼の足跡を追う中で、次第に偉大さを知ることになった。何とかして、その功績を公平な目で見てあげたい。そんな思いから筆をとった(東京医科歯科大学院教授 若松 秀俊)

## 各界の重鎮ら育てる